

抽象フォームを用いたエンドユーザ主導の要求定義法

中 所 武 司^{†1}

持続可能な社会実現の一環として、IT 技術の適用による資源の節約や環境保全の達成が期待されている。そのためには、日常的業務のコンピュータ化をその業務の専門家自身が構築する技術が有用と思われるので、そのキーとなる抽象フォームを用いた要求定義法について述べる。

Enduser-Initiative Requirement Definitions based on Abstract Forms

TAKESHI CHUSHO^{†1}

For a sustainable society, information technology may be applied to systems for natural resources saving and ecological environment improvement. As a solution, this paper describes requirement definitions based on abstract forms in a method that end-users build applications by themselves.

1. はじめに

持続可能な社会実現の一環として、IT 技術の適用による資源の節約や環境保全の達成が期待されている。このような対策を実現するためには、そのためのアプリケーションの開発が必要となることが多いが、その開発を IT 技術者に委託するには相当の資金が必要である。しかしながら、企業の観点での費用対効果（利潤）が期待できる分野を除いては、開発資金の調達に至難である。

このジレンマの解決には、エンドユーザ主導開発が不可欠である。例えば、町内会のボランティアで運営している不用品交換ショップを担当者自身が Web サイトとして立ち上げることができれば、大きな効果が期待できる。同じく、既存の地図情報サービスとショッピングサイトの検索サービスを最近注目されているマッシュアップ技術によって統合した Web サイトを構築できれば、近くのショップからの購入により輸送時の CO2 排出量の削減効果を期待できる。また、いたるところに存在する申請書類受付などの窓口業務を窓口担当者自身で Web サイト化できれば、ペーパーレス化のみならず、窓口訪問者が書類提出のために利用するエレベータの電気代の節約にもなる。

本論文では、日常的業務のコンピュータ化をその業務の専門家自身が実現するという観点から、エンド

ユーザ主導開発のキーとなる抽象フォームを用いた要求定義について述べる。

2. エンドユーザ主導のシステム構築

2.1 抽象フォームの導入

エンドユーザ主導の基本的システム構築技術¹⁾を図 1 に示す。

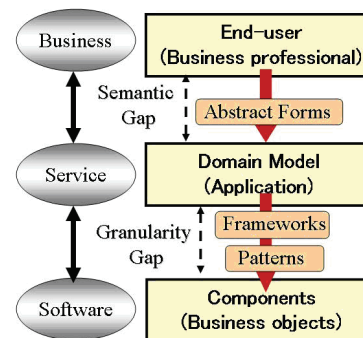


図 1 エンドユーザ主導のシステム構築技術

ビジネスレベルでエンドユーザ（業務の専門家）が構築したビジネスモデルは、サービスレベルでは、ドメインモデル（ワークフローを示す業務モデルなど）に変換され、アプリケーションの原型ができる。最後にソフトウェアレベルで、コンポーネントを組み合わせたアプリケーションを構築する。このとき、サービスとソフトウェアの間の粒度的なギャップは、フレームワークやパターンあるいは業務コンポーネントな

^{†1} 明治大学 理工学部 情報科学科 ソフトウェア工学研究室
Meiji University, Department of Computer Science

